◎シリーズ
私のキャリア形成 ― 第12回

転職の体験に研究・分析を重ね、キャリアカウンセリングに活かす

柏木　理佳（会員番号 CDA130449）

このシリーズは、自己のキャリア形成を図っていただく一つの場として設けられました。毎回、「私のキャリア形成」というテーマでCDA会員の皆さまの手記を掲載しています。皆様には、是非、この場を大いに参考・活用していただきたいと思います。

＜入社、半年後に入院＞

18歳で豪州の大学に進学、帰国後、米国の貿易会社の調達部に勤務しました。米国や日本でのコンピューターの発注数量が決まったら、その各部品を製造するタイや中国の工場に注文を出します。それを同時期に調達しアセンブリングしますが、1カ国でも工場のスケジュールが1日でも遅れると他の国の部品が待機状態になり、全体の納期が半年近く遅れることもあります。また、天災などにより停電になるなど工場の稼働が1日遅れると数千万円の赤字になることもあるのです。

通常、外資系企業に勤務する人は日本企業などで経験を積んでから転職する人が多いのですが、私はあくまで実践的な英語を使いたいと、新卒で外資系にこだわり入社ました。ところが、コピーの取り方、電話応対、FAX、ビジネスレターの書き方など基本的なことも知らないため、一から自分でセミナーに行き本を読んで習得しなければなりませんでした。10歳以上年上の先輩でも、後輩として私の面倒を見ることもなくライバル視されていました。利益追求型のドライな外資系ですから数カ月で直属の上司が離職、新しい上司の仕事の仕方に慣れるのにまた一苦労でした。半年たちましたが新入社員の私にはこれがストレスで入院することになります。

＜入院先でなりたいものを考える機会を＞

初めて仕事をし始めて半年後、「本当になりたい仕事は何だろうか？」と入院中のベッドの上で考えました。当時の職業は、各国の工場の工場長などに納期通りに輸出させるまで、英語で電話やFAXでプレッシャーをかけて稼働させる仕事でした。だからこそ、「なりたい仕事は？」と考えたところ、今の仕事とは正反対の「人に親切にできる仕事」でした。それと、「外国とかかわりのある仕事」でした。入社半年後に入院したけれど、かえって「な

りたい仕事は？　適職は？」と考える時間ができたことが、功を奏しました。

ちょうどそのころ、外資系の航空会社が香港を基点に世界中をフライトできる客室乗務員を募集していました。試験を受け、合格、半年後から勤務することになります。

しかし合格後も「経営やビジネスにかかわる仕事がしたい」という気持ちは変わらず、研修時に「この仕事は３年間限定の職業」と決めて入社しました。15カ国のクルーとコミュニケーションをとりながらフライト中も常に「天職何だろうか？　何ができるのだろうか？」と考え続けました。

＜海外での生活がその後の職業に影響＞

1992年から香港に在住しましたが、返還前の香港に住んでいたことで、その気持ちはますます強くなりました。1997年の中国への返還前の香港は、不安と恐怖の塊でした。香港人は海外在住資格を取得するために資金を貯めていたり、外国人との結婚により国外に逃げようとしていたり。中国への政治の不信感から、自分以外は信用できない様子がまざまざと感じられました。街中では英語学校や日本語学校の看板から北京語学校の看板に変わり、広東語が主流の香港人が北京語を習得し始めていました。

そんな状況は天職を見つけようと焦る気持ちに拍車をかけました。しかし３年近く経ったものの、何になりたいか具体的な職業は見つけられませんでした。しかし、直感的に、

柏木　理佳（かしわぎ　りか）
生年月日：1968年12月18日
出 身 校：ボンド大学院（豪州）経営学修士（MBA）、2012年～桜美林大学院国際学研究科博士課程後期
経 歴 書：1992-1995年　キャセィパシフィック航空客室乗務員（香港在住）中、有給・無給休暇を使い広東省中山大学の漢語科に留学
1994-1996年　中国・北京・首都師範大学漢語学科留学
1997-1999年　シンガポールにて会社設立に携わる
1998-1999年　NHK鹿児島放送局報道部キャスター
2003年 NPO法人キャリアカウンセラー協会設立・理事
2004-2007年　働きながら豪州ボンド大学院経営学MBA（経営学）取得
2007-2010年　中国経済を専門にシンクタンク研究員を経て嘉悦大学准教授
2011年－出産・育児　桜美林大学院国際学研究科博士課程後期、嘉悦大学付属産業文化観光総合研究所・客員主任研究員、実践女子大学院・社会科学　非常勤講師
主な著書に『30分間で天職が見つかる本』（PHP研究所）、『人生後半からの「好きな仕事」の見つけ方』（PHP研究所）、『アナタにぴったりの天職につける本』（PHP研究所）

今後は中国ビジネスにかかわるべきだと感じ、中国に留学することを決意。航空会社を退社後、北京、広東の大学で中国語を学びながら中国で仕事を探しました。

しかし1995年、当時、中国では外国人への規制が厳しく仕事はなく、中国語も使えるシンガポールで会社設立に携わります。ところがシンガポールでのビジネスは自分の思い描いていた想像とは違い失望するとともに自分の無能さを痛感することになります。それもそのはず私の過去の経験は会社設立とは違う内容だったからです。しかし、まだ26歳、そんなことを冷静に分析することもできず、何が適職なのか途方にくれます。

＜病院での何気ない会話から自分の経験を肯定的に＞

ちょうど、そのころ、父の入院をきっかけに帰国、長期入院している父の病院で看病しながら、病室内の入院患者やお見舞い関係者に自分のことを質問され話しているうちに、外国で仕事を見つけること、仕事をすることの困難さを再度、実感しました。そして自分は苦労だけでなくいい経験をしたこと、自己肯定できるようになりました。

それが、これから外国で働きたいと思っている人に少しでも効率よく実践的に仕事を見つけたり適職についたりできるよう、または、海外で仕事を起業したいと考えている人に対してアドバイスできる人になりたいと思うようになりました。しかし長期海外に住んでいたため今度は日本でどのようにして就職先を探すのかわからずじまいでした。就職情報雑誌での公募はあるものの自分の興味のある職業の会社はのっていません。電話帳で一から探し一社ずつ電話してみました。CDAの資格についても浸透していません。どうやったらアドバイザーになれるのか、まだ30歳にもなっていないためアドバイザーとしても自信もなかったのでしょう。具体的な就職活動もできぬままでした。そんなとき、NHK報道部キャスターの応募があり、受験してみると合格。遠回りになるかもしれないと思いましたが、キャスターとしての仕事に携わるようになり、ニュースを読んだり、企画を考えたりしました。フリーになった後は、経済番組や中国関連の番組などでアドバイスできるチャンスに恵まれました。中国、シンガポールでの体験を思い出しもっとビジネスのことを勉強しておけば違っただろうと思い、MBA（経営学修士）を取得しました。過去の体験を分析して、もっとより具体的なビジネスアドバイスができるようになりたいと思い、MBAやFP、テクニカルアナリスト、CDAの資格をとり経験と資格をつなげるようにしてみました。その後はNPO法人キャリアカウンセラー協会を設立し、個人のキャリアカウンセラーを実施しながら、もっと進路で悩んでいる多くの人に、勇気を与えたい、たくさんの職業や適職があることを知ってもらいたいと、本にまとめているうちに、技術専門職の人材ビジネス会社など法人企業とも契約することができました。

キャリアカウンセラーの職業は、カウンセリングに訪れた人の考え方次第で決まることがほとんどです。その人の進むべき道は、本人の意思に左右されるため、カウンセリング後は

晴れ晴れとした顔で満足して帰る人と、そうでない人といます。私の体験には限界があることなどから、100％の充実感がなされないこともたびたびありました。

＜37歳から研究員やキャリア授業を＞

そこで、経営学MBAを取得後、37歳から中国を専門とするシンクタンクの研究員を経て、大学の経営学部や短期大学部で准教授として働くことになります。そこでCDAを持っていること、転職経験が注目されキャリアの授業も教えることになりました。ちょうど、あちこちの大学で力を入れるようになったキャリア教育です。具体的な就職活動を支援するため、履歴書の書き方から身だしなみや質疑応答の面接対策、自分の適職やなりたい仕事を見つけるための自己分析、学生の希望する職業があれば、授業の中で企業訪問や体験者の話をとりいれました。同時にゼミの学生にはより個人指導を充実させました。そのかいもありゼミの就職率は常にナンバー１でした。

＜自分のリミットはライフスタイル＞

学生たちに教えながら自分のライフスタイルやキャリアのリミットも考えるようになりました。キャリアはいつでも積める、でも出産は今しかできないと考えるようになります。そして、高齢出産を経て、現在は、２歳の子供の育児と同時に、大学院博士課程後期で中国企業のコーポレートガバナンスの研究もしながら、大学院修士課程の学生に経営学の人的資源について教えています。出産、育児は予想以上に大変でした。出産前は、産んだら数カ月後、すぐに保育園にあずけて復帰する予定でしたが、熱を出したりすれば職場を途中で抜けて戻らなければなりません。責任のある仕事につくとそれが許されない状況になります。また、保育所の待機児童問題もあり自宅で子供を寝かしつけてから論文や書籍を書くなど自分の自由な時間でできることに重点をおきました。

日本に帰国して15年近くが経ち、まだ発展途上ではありますが、ようやくキャリアやビジネスなどについてアドバイスをする仕事につくことになりました。中国ビジネスや経済などのアドバイス全体を考えると、難しい分野でもありますが、キャリアのように細かく授業のコマを分けるようにすることで、わかりやすく説明できるようにしています。経験からでた自分のコンプレックスを克服するためにとった資格を通して分析するようにしています。

バブル崩壊前だったこともあり、若いうちはパワーややる気だけで周りのサポートにより前向きに海外を目指したり、職業としても様々なチャンスが与えられたりしました。その転職の体験を体験だけに終わらせるのではなく、研究と重ねることで分析すれば見えなかったものが見えることもありました。